

海洋予測システムFRA-JCOPEの運用開始

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平井, 光行, FRA-JCOPEグループ メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006403

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



海況予測システムFRA-JCOPEの運用開始

水産総合研究センター (FRA) は、水産庁資源動向要因分析調査の一環として、2007年4月から我が国周辺太平洋域を対象とした海況予測システムFRA-JCOPEの本格運用を開始しました。FRA-JCOPEは、JCOPE (Japan Coastal Ocean Predictability Experiment) を開発した海洋研究開発機構との共同研究によって改良され、水産総合研究センターが運用するシステムとなっています。ホームページから、水産資源の動向に関わる過去・現在・未来の海況情報を発信するとともに、これらの情報を漁海況予報、資源評価、資源動向要因解析、大型クラゲの出現予測等に活用しています(図1)。

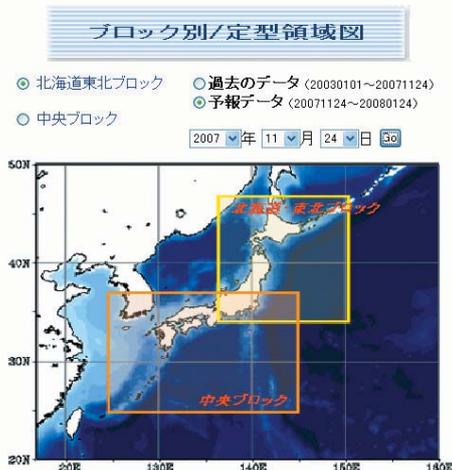


図1. FRA-JCOPEホームページ
<http://ben.nrifs.affrc.go.jp/>

FRA-JCOPEの特徴は、地方自治体の水産試験研究機関が実施している定線観測データを準リアルタイムで活用している点です。観測値とモデルによる予測値を適切

に組み合わせて最適な推定値を作成する手法(データ同化)により、海況の現状を約10km格子の数値データとして再現しています。

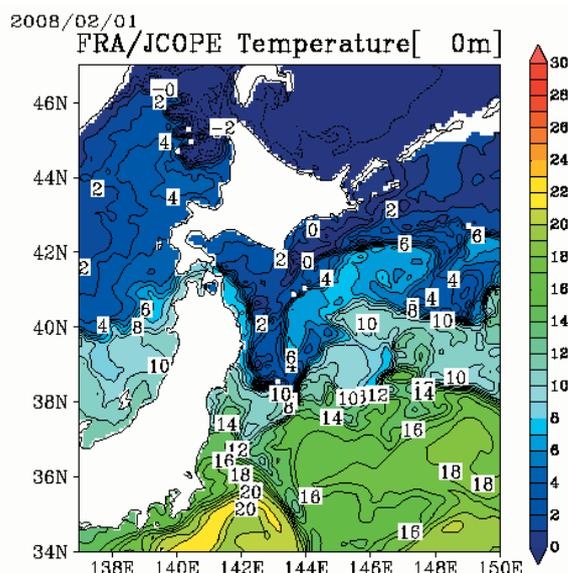


図2. 現在から2カ月後の海表面水温予測例

調査船や漂流ブイ等による観測値は、広い海洋においてはまばらです。観測の空白域をモデルで補間することにより、海況予測の初期値となる現況把握や予測の精度を高める工夫を行っています(図2)。一般向けの配信情報は、2003年1月1日に遡り現時点から2カ月先まで毎日の海表面と水深100mにおける水温と塩分の水平分布図です。水産試験研究機関にはさらに詳細な情報を発信しています。

今後、検証と改良により海況予測の精度向上を目指すとともに、漁海況予測や資源変動要因解明研究への応用を図る必要があります。

研究担当: 混合域海洋環境部 平井光行
FRA-JCOPEグループ

東北水産研究レター No. 6

平成19年12月 発行

発行: (独) 水産総合研究センター
編集: (独) 水産総合研究センター 東北水産研究所
〒985-0001 宮城県塩釜市新浜町3-27-5
TEL 022-365-1191 FAX 022-367-1250

※ 平成19年4月3日から ホームページアドレスが変更となりました。
<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/> (変更前 <http://www.myg.affrc.go.jp/>)